

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立大詫間小学校

4月に文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童（生徒）の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童（生徒）一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童（生徒）の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和4年4月19日（火）

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童（中学校3年生生徒）

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
- 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、記述式の問題を一定の割合で導入する。

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

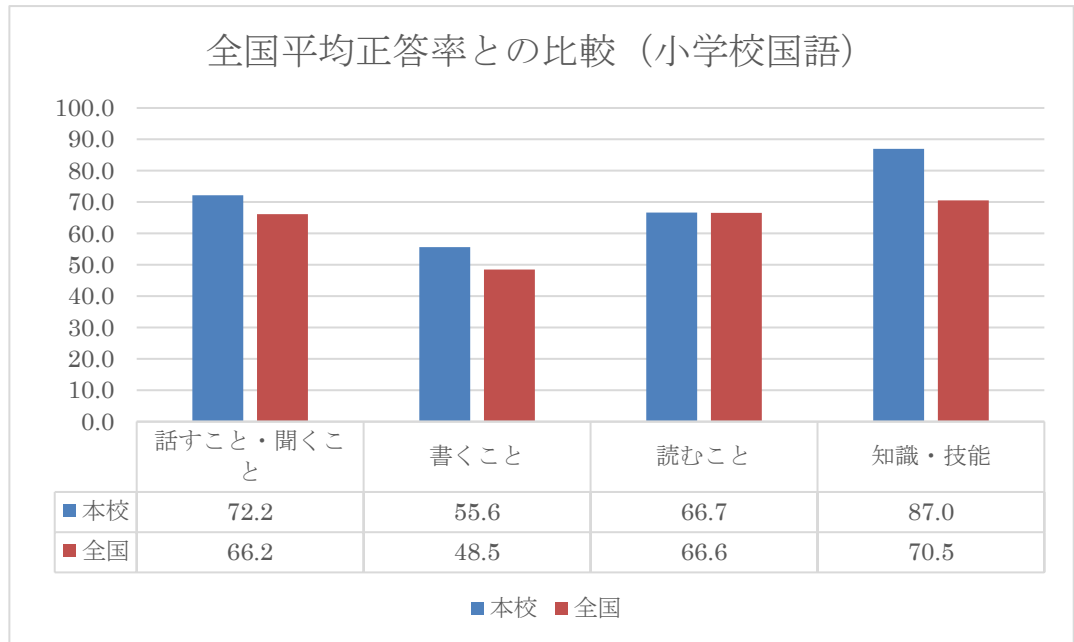
児童に対する調査	学校に対する調査
学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査 (例) 国語への興味・関心、授業内容の理解度、読書時間、勉強時間の状況など	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況など

■ 調査結果及び考察について

全国学力学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご理解の上、ご欄ください。

■ 調査結果及び考察

1 国語



(1) 結果

どの領域も、全国平均より高い結果でした。特に、「知識・技能」は、全国平均正答率を大きく上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

「知識・技能」は、国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から、漢字や言葉の学習、音読などに取り組んでいることの成果が表れていると考えられます。課題は、「記述式」の問題の正答率を上げることです。正答率 70.4%は、全国平均正答率 51.3%を上回っているものの、記述を苦手としている子どもが多くなります。記述力を高めることが、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の力を伸ばすことにもつながります。また、単なる「知識」を問う問題ではなく、「思考力・判断力・表現力」を重視される傾向にありますので、授業改善を通して、日々の授業で論理的な思考力や表現力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

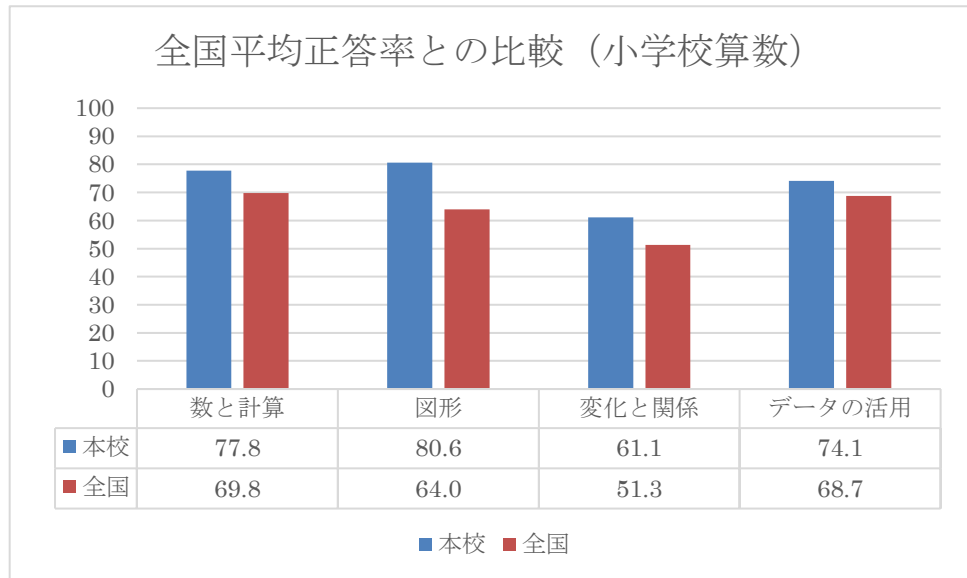
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく、条件に合う文章を書く機会を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 音読を大切にしましょう。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 読書を大切にしましょう。文学・科学・歴史・地理・芸術…いろんな本を読み、いろんな表現や用語にふれることで、語彙力を高め知識の幅を広げることができます。地域や市立の図書館や本屋に定期的に行くことも、子どもの読書習慣をつける上でおすすめです。

2 算数



(1) 結果

全国平均よりも高い結果でした。全ての領域で全国平均をやや上回っています。また、無解答率をみると、全問題で全国平均よりも低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、「A 数と計算」の領域の、「示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述する問題」の正答率が、全国平均正答率を上回っていました。一方、「データの活用」の領域の、「目的に応じて円グラフを選択し、必要な情報を読み取る問題」は、全国平均正答率より下回っていました。今回、プログラミングに関する問題が出題されました。示されたプログラムでかくことができる図形を選ぶ問題は、全国平均正答率を上回っていましたが、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き換える問題は課題が見られました。プログラミングに関しては、一人一台端末を活用して今後も指導の充実を図ります。

今後、日々の授業で、子どもたちが思考・表現する時間を十分にとると共に、自分の考えたことを自分の言葉で順序立てて表現する場を持つことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

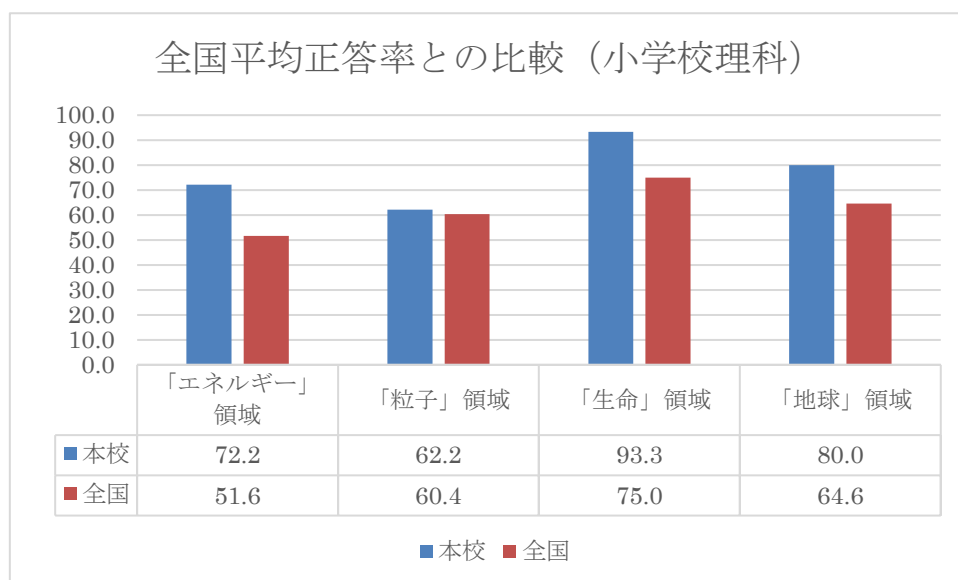
【学校では】

- 式から答えを出すだけでなく、式の意味を考えさせたり、式に合う問題を作らせたり、式から生活場面を想起させたりしながら、式、絵や図、具体的場面を行き来させるようにします。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、自分の考えを式や言葉を使って、論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。
- ノートチェック、プリント、ドリルなど、日々の指導の中で個々のつまづきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 算数が好きにするには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「買い物で元値の○%引きを考える」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。

3 理科



(1) 結果

全国平均よりも高い結果でした。特に、「エネルギー」の領域で全国平均を大きく上回っています。また、無解答率を見ると、すべての問題で全国平均より低くなっています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、短答式の問題で、全国平均正答率を 26.4 ポイント上回っていました。また、「生命」の領域の問題で、5 問中 3 問、平均正答率 100%を達していました。さらに、全体を通じて約 80%の問題が、全国平均正答率を上回っていました。一方で、実験器具の使い方を問う問題や、光の性質の基礎的な問題で課題が見られたため、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る必要があります。また、自然現象から得た情報を、他者の気付きの視点で分析して解釈し、自分の考えを記述する問題が全国平均正答率を下回るなど、「記述式」の問題でも課題が見られました。

日々の授業に、自分の考えを説明する活動や書く活動を継続して取り入れるとともに、集団解決で伝え合う場を十分にもち、考えを深めさせることが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 目的意識をもった実験・観察を行うための基礎的・基本的な知識・技能の定着を図ります。
- 理科の学習過程を「事象提示→課題→予想→実験・観察→結果→考察→課題・・・」とし、一貫した学習指導を行うことにより、児童の思考力、判断力、表現力を向上させます。
- 様々な見方や考え方ができるように、グループで話し合う活動を取り入れていきます。また、結果に対する考察を論理的に書く機会を増やし、記述力の向上に努めます。

【ご家庭では】

- お子さんの宿題プリントやテストをご覧になって、励ましや称賛の言葉をかけてください。
- 理科が好きになる場合も、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな。」と思う経験をさせることが有効です。星空を見上げて星座の話をしたり、コップの結露の理由を考えたりすることで、習ったことと日常生活での現象を結びつけると理解が深まることもあります。
- 佐賀県立宇宙科学館や佐賀県立博物館などのイベントチラシ等も配布しております。お時間があるときに一緒に行ってみることで、興味関心が向上すると思います。

4 生活習慣や学習習慣に関する調査

(1) 結果

《生活習慣・挑戦心・規範意識について》

調査項目	本校 %	全国平均 %
朝食を毎日食べていますか。	88.9%	84.9%
毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。	55.6%	40.7%
毎日同じくらいの時刻に起きていますか。	66.7%	56.8%
自分にはよいところがあると思いますか。	55.6%	39.4%
難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。	11.1%	27.6%
人の役に立つ人間になりたいと思いますか。	88.9%	75.1%
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。	88.9%	83.9%

朝食・起床・就寝については全国平均を上回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。今後も、続けてほしいと思います。

挑戦心の項目について、肯定的な回答をした子どもは、全国平均よりも低い結果が出ています。挑戦することの大切さを伝えたり、失敗しても励ましていったりするなど、日々の関わりの中で挑戦心を育てていきたいと思います。ご家庭でも引き続き温かい見守りや励ましなどよろしくお願いします。

《家庭学習の様子》

調査の項目	本校%	全国平均 %
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか。(よくしている子ども)	11.1%	27.5%
学校の授業時間以外に、普段(月曜から金曜日)1日当たりどれくらいの時間勉強していますか。「3時間以上」	0%	11.3%
「2時間以上、3時間より少ない」	0%	13.8%
「1時間以上、2時間より少ない」	22.2%	34.3%
「30分以上、1時間より少ない」	66.7%	25.8%
「30分より少ない」	0%	10.5%
「全くしない」	11.1%	4.2%

家庭学習については、普段1時間以上学習している児童が、全国平均より少ない結果でした。また1時間未満の子どもが多く、個人差も見られます。家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や子どもに伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習(自学)についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを掲示して定着しつつあります。
- 読書カードを活用したり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。これからも、継続して取り組んでいきます。

【ご家庭では】

- 上記の項目は、改善を図ろうと「家庭学習がんばろう週間」でも取り上げている項目です。「家庭学習がんばろう週間」だけでなく、規則正しい生活と家庭学習の定着を図ることは、極めて大切なことです。お子さんが自分からできたとき、少しでも向上したときを逃さず、褒めることで意識が更に高まります。